



© Matthias Krueger

ローデリッヒ・クライレ (クロイツカントール<音楽監督・指揮>)

Roderich Kreile, *Kreuzkantor*

クライレは、1997年以来、プロテスタント教会音楽の中で最も名誉な役職である、ドレスデン聖十字架合唱団の、第28代音楽監督を務めている。

1956年生まれ。宗教音楽と合唱指揮をミュンヘンで学び、教会音楽家としての評価を、地元のみならず広範囲で瞬く間に確立した。1989年から96年にかけて教鞭をとったミュンヘン音楽大学では教授に昇格し、その間には2つの大学合唱団で指揮も行った。1994年にはミュンヘン・フィルハーモニー合唱団の指揮者に就任。オルガニスト、講師としてもドイツ内外から招聘を受けている。

聖十字架合唱団の音楽監督としてのクライレは、教会音楽の演奏のみならず、すべてのコンサートとツアーを指揮している。そしてこの合唱団と共に、宗教音楽から一般的な合唱曲まで広範囲にわたるレパートリーを確立し、近年は新曲の初演も多数行っている。また、オーケストラとの共演にも力を注いでおり、ラジオやCDレコーディングのための演奏も数多い。

前世紀における音楽監督の職務は、教会の礼拝式での指揮が大部分を占めていたが、今日の職務は、礼拝的なものを超えて大きく広がっており、彼は市の芸術監督としての責任も担っている。



ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団 Dresdner Philharmonie

ザクセン州の州都のコンサート・オーケストラとして、ドレスデンで年間80回を超えるコンサートを行っている、この町の文化生活には欠かせない存在。1969年から本拠をアルトマルクト広場に立つ文化宮殿に置く同楽団のコンサートは、多数の市民や観光客にとって、大きな魅力となっている。またこれまで、ヨーロッパ各地のほか、中国、日本、イスラエル、南米、アメリカ合衆国への演奏旅行を行っている。

楽団のルーツは15世紀にまで遡るが、正式な成立は、ドレスデンでコンサートホールの柿落としが行われた1870年11月29日。産業会館ホールの設立が、市民に大オーケストラを組織する機会を与え、宮廷から独立したドレスデンの公共コンサート活動が、新たな段階へ向けて第一歩を踏み出したのである。当時の〈産業会館オーケストラ〉は、1885年からフィルハーモニー・コンサートを催しており、それゆえ1915年、現在の名称を得ることとなった。

過去には、プラームス、チャイコフスキー、ドヴォルザーク、シュトラウスなどが自作を指揮し、ニキシュ、ヨッフム、カイルベルト、クナッパーツブッシュ、コンヴィチユニー等錚々たる顔ぶれが指揮台に登場。首席指揮者としては、ケンペン、シューリヒト、マズア、ヘルヴィッヒ、ケーゲル、プラッソン、ヤノフスキ等が活躍している。

2004年シーズンからは、ラファエル・フリーベック・デブルゴスが首席指揮者に就任。地元及び海外ツアーで大成功を収めており、来年6月には同コンビでの日本公演が予定されている。